

市民70人が電車の活性化策などを探った「電車を楽しみ、公共交通を考えよ～会」＝27日、武生市府中3丁目



理想の電車乗って探る

公共交通テーマ

武生市民70人、意見交換

市民が電車の魅力や活性化策などを語り合う「電車を楽しみ、公共交通を考えよ～会」が二十七日、武生市府中三丁目の福鉄武生新駅などで開かれた。

丹南市民自治研究センターと中部地区労働福祉平和センターが主催。公共交通のほか、まちづくりや環境などさまざまな役割を持つ電車について考えていこうと今年初めて開かれた。幼稚園児から七十代のお年寄りまで一般市民七十人が参加した。まず福井鉄道鉄道部の鈴置宏往部長が、同鉄道の歴史と現状について説明。自動車の普及により一九八五年には年間一万三千人いた利用者が、昨

年は四千六百人まで落ち込んだことを説明した。

「ふくい路面電車とまちづくりの会」の清水事務局長は、超低床車を導入し

てから利用客数が増えた熊本市の事例や今後の取るべき方向性を説明した。

その後参加者は、武生新―田原町間を電車で揺られながら、「こんな電車があつたらいいな」や「福鉄への要望」など八グループに分かれて自由に意見を交換し合った。